

【授業実践振り返りカード】

学校名 富士見小学校	1 学年
授業者氏名 山科 美里	
題材名 「はが でてくる えほんを たのしもう(続)」(国語科も含む) 「なつやすみちゅうの はみがきをがんばろう」	
主 眼 歯みがきの絵本を読書し、知ったことを伝え合った子ども達が、継続して一人読書や親子読書を楽しむことを通して、更に歯についての新しい知識を身につけ、今以上に自分の歯に関心をもち大切にしようとする力を培うことができる。 給食後の歯みがきを習慣化してきた子ども達が、夏休みの歯みがきについて考えることを通して、朝昼夜3回の歯みがきを毎日行ったり、パタカラ体操や「いーやーいー」にも取り組んでみたりしようとする態度を身につけることができる。 (文字を学習し始めた子ども達が、繰り返し興味のある本を自分で選んで一人読書をしたり読み聞かせしたりすることで、楽しんで読書に親しむことができる。(国語科))	
学習材 歯が出てくる絵本 (学校図書館・富士見町図書館合わせて 26 冊を準備) 夏休み歯みがきカレンダー(養護教諭が作成したもの)	
成果 ・ 1 ヶ月間、継続して歯の絵本を読み、感想を伝えあってきたことで、歯について新しい知識を獲得することができた。また、友達の感想を聞いたり読んだりすることで、興味がわき次に自分が読んでみたい本を我先にと積極的に見つける姿もあった。 ・ 給食後、歯みがきがしっかりと取り組めない際には、「歯みがきしないと歯が茶色くなるよ。」と子ども達から知ったことを語る場面もあった。 ・ 夏休み前、歯みがきカレンダーを扱った際、「先生、家でも昼ご飯のあと歯みがきするの？」という質問があったので、「みんなはどう思う？」と考えを聞いた。「甘い物は、歯を溶かすから、家でも磨く」など意見交流ができ、「歯を磨きなさい」ではなく「歯を磨いたほうがいいからそうしよう」と、歯みがきに関しての見方が広がった。 ・ 国語科の先生が「歯みがき川柳」を募集していたので、子ども達の絵本学習の気づきから数点出展した。選ばれた児童はとても喜んでいた。 ・ 夏休みに持ち帰るタブレットを使って、歯みがきカレンダーに添付されていた動画の QR コードを読み込むことも話をして、家でもパタカラ体操が取り組める環境を作れた。	
課 題 ・ 夏休み中は、家庭の協力が必要となるため、家庭によって歯みがきへの取り組みに差があることが想像できる。	

【授業実践振り返りカード】 7月

学校名 富士見小学校	学年 2 学年
授業者氏名 長田 文彰	
題材名 「歯ッピー川柳をつくろう」 ～粘土を使った歯の形を見ながら～	
主 眼<フォーマット> 2組さんが作った粘土の歯を観察した子どもたちが、歯の形や並び・歯の模型の作りの違いに着目し、自分たちも作りたいけれど、どんな願いや見通しをもって作ればよいかを考えることを通して、歯のキーワードとなる言葉集めに取り組んだり、詩の学習と絡めて5・7・5調の川柳に挑戦したりしながら、歯についての気づきや観察力を高め、健康への関心を深める力を培うことができる。	
学習材 ・粘土で作った歯の模型 ・「歯」からはじまる言葉集めプリント	
成 果 ・2組さんの作った作品の良さを自分たちにも取り入れようとよく観察し、自分たちの時にも役立てようとしていた。(歯だけでなく、顎や舌、歯茎などにも着目していた。) ・手鏡を使った自分の歯や既製の歯を見るのではなく、同じ学年の友達が粘土で作った歯を観察したことで、歯への親近感がわき、歯に関した言葉をたくさん思いつくことができ、プリントに多く記入することができた。(歯は、体の動きをよくする。エネルギーにつながる。しゃべるに役立つ。飲み込みをよくする。などが出てきた。) ・ちょうど、国語の学習で、夏の詩に取り組んでいたこともあり、言葉集めや5・7・5調にしていくことに関心をもって取り組めた。 ・次回の歯の学習「自分の歯ってどんな形?～粘土を使って～」への意欲・役立てることができそうだ。	
課 題 ・歯への関心や課題の持ちにくい子への手だて	

【授業実践振り返りカード】 7月

学校名 富士見小学校	3 学年
授業者氏名 丸山 晃輝	
題材名 「正しい歯みがきの仕方でおやつ後の歯をきれいにしよう」	
主 眼 パタカラ体操や自分の歯について学び、歯みがきの大切さを感じた子どもたちが、オレオクッキーを食べた後、歯を磨き、テスターを行う活動を通して、どんな箇所が歯みがきできていないのか自分の歯みがきを振り返ることができる。	
学習材 ・オレオクッキーを食べて歯みがきした後の自分の歯 ・テスター	
成 果 ・オレオクッキーを食べて歯みがきをすることで、自分の歯みがきの仕方がわかった。 ・歯と歯の間が死角になっていることに気づいた。 ・歯茎があまり磨けていない。 ・前歯が以外にも磨けていない。 ・2年生の時と比較して磨けている箇所が増えている。	
課 題 ・今回のテスターで磨けていない歯や箇所を今後の歯みがきに生かしていくこと。	

【授業実践振り返りカード】 7月

学校名 富士見小学校	学年 4 学年
授業者氏名 高橋 準	
題材名 「歯と口の健康」（総合的な学習の時間）	
主 眼<フォーマット> ○○について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、○○に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、○○することを通して（本時の中核的な学習活動）、○○する力（育成する資質・能力）を培うことができる。	
主 眼 富士見小学校や富士見町全体の「歯と口の健康」についての関心を高めた子どもたちが、自分たちにできる取組（解決策）に着目し、話し合っ取組を決める（しぼる）ことを通して、「歯と口の健康」に対する主体的に学習に取り組む態度を培うことができる。	
学習材 （本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等） 6 学年がテンハウさんとコラボしている取組	
成 果 6 学年がテンハウさん（子どもが取り組もうとしていることに関係する専門家やプロ）とコラボすることで、大がかりな取り組みを実行できている事実（学習材）により、「○○さんに協力してもらえば、・・・をするときには～～～ができるかも」と「歯と口の健康」に関する取組を「自分事（主体的）」で捉えて話し合う姿があった。	
課 題 今後、子どもたちが考えた取り組みを計画、実行していくにあたり、どのように専門家やプロに協力してもらうかが課題である。ただの「お願い」ではなく、「交渉」をしていきたい。	

【授業実践振り返りカード】 7月

学校名 富士見小	学年 5 学年
授業者氏名 赤堀万里子	
題材名 「 歯ぐらしについて学ぼう 」	
主 眼<フォーマット> ○○について学んだ (or 体験した・調査した) 子どもたちが (既習や経験)、○○に着目し (健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方)、○○することを通して (本時の中核的な学習活動)、○○する力 (育成する資質・能力) を培うことができる。	
主 眼 歯の汚れや歯菌について学んだ子どもたちが、歯ブラシの汚れに着目し、歯みがきした後の歯ブラシの汚れを確かめたり、歯ブラシの衛生的な扱いについて学んだりすることを通して、これからの歯みがきに活かせるようにする。	
学習材 (本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等) ○保健士による指導。(歯みがきの仕方・口の汚れ・歯ブラシの汚れ) ○プラスチックコップを用意し、歯みがき後の歯ブラシをゆすいでみることで、水の濁りが分かるようにする (歯ブラシについた汚れ)。 ○ブラッシングの仕方を大型の歯の模型を使いながら、視覚的に指導してもらった。	
成 果 ○ブラッシングの仕方は、何度か聞いていると思うが、子どもたちにとっては心に残る指導だったようで、振り返りにもブラッシングのことが多く書かれていた。 ○「歯みがきをした後は、しっかり歯ブラシも洗いたい。」「水けをきって、歯菌が付かないようにして、口にばい菌が入らないように対策したい。」「歯ブラシの生え際を重点的に洗う。」「歯ブラシを 1 か月に 1 度なるべく替える」「今までは手で歯ブラシを洗ったことはなかったが、これからは歯ブラシを手で洗いたい」「細かく磨く」など、自分の歯みがきについて考えることができた。	
課 題 ○うがいした水の汚れが見えるよう、吐き出しようもプラコップが良い。 ○たくさんの情報があったので、一つの情報を深く考えるのもよいと思う。 ○なかなか教科横断的な授業にならない。	

【授業実践振り返りカード】 7月

学校名	富士見小学校	学年	6 学年
授業者氏名 大道 健人			
題材名 「 口腔機能の低下を予防しよう 」			
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、〇〇に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、〇〇することを通して（本時の中核的な学習活動）、〇〇する力（育成する資質・能力）を培うことができる。			
主 眼 6月に全校でお口の健康アドバイザーから口の健康を維持することの大切さを学んだ子どもたちが、他者とかかわりながら健康維持を保つことに着目し、「パタカラ体操」の効果について理解を深めることを通して、夏休みも含めて自らすすんで日常的にお口の健康を維持する態度を養うとともに、家族や親族にも口腔機能の低下を予防するように働きかけようとする。			
学習材 ・「パタカラ体操」の映像と説明の資料 ・家族に働かせたいと振り返った友だちの意見			
成 果 ・保健委員の三役が毎朝玄関で「パタカラ体操」の映像を流していることを知っている児童がいて、友だちのがんばりから自分も意識して「パタカラ体操」に取り組みたいと考えるきっかけになっていることが分かった。 ・「歯を磨くことはがん予防にもつながることをおばあちゃんにも伝えたい。」と以前の授業で振り返っていた K 児の考えを再度共有することで、夏休み中に家族で「パタカラ体操」に取り組み、口腔機能の低下を予防したいと考える児童がいた。 ・「パタカラ体操」を短時間でも繰り返し授業で扱うことで、休み時間などにも自然と口ずさむ児童がいる。			
課 題 ・もっとクラスでも日常的に「パタカラ体操」を行い、クラス全体として口腔機能の低下予防の意識を高めたい。			